

《短報》

クロクシヒゲボタルの蛹

川野敬介

豊田ホタルの里ミュージアム, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

クロクシヒゲボタル *Cyphonocerus watarii* についての報告は極めて少なく、特に、幼虫や蛹、卵についての報告は皆無である。筆者は、本種が属するクシヒゲボタル属の幼虫を2007年6月6日に福岡県北九州市小倉南区長野山において3個体採集し(川野, 2008), その内の一個体を羽化させることでクロクシヒゲボタルと確認できた。その過程でこれまで知られていなかったクロクシヒゲボタルの蛹を観察したので報告する。なお、幼虫や羽化過程の詳細については別の機会に譲る。

本種の幼虫は、土を3cm程入れたプラスチックカップ(高さ9.5cm, 上部直径13cm, 下部直径10cm)に個別に入れて暖房設備のない暗室で飼育した。3個体の内、1個体が2008年1月上旬から餌を食べなくなり、1月末に潜土した。そして、3月12日に土表面から約1cm潜った容器壁面で蛹化した(図1, 2)。なお、人為的に土に穴を開けるといった意図的な潜土誘導は行っていない。

蛹化した個体は、蛹室から取り出して土の表面に置き、羽化過程などを観察・撮影した。蛹は、観察中に刺激を与えると、体をよじらせ、頻りに腹部末端にある一対の発光器を発光させた(図4)。光は弱く持続的であった。羽化が近づくに従い次第に前胸、翅、複眼、触角が黒化した。2008年4月3日(20時18分頃)に羽化(雄成虫)し、同年4月18日に死亡した。



図1 蛹化したクロクシヒゲボタル (1)
※矢印



図2 蛹化したクロクシヒゲボタル (2)

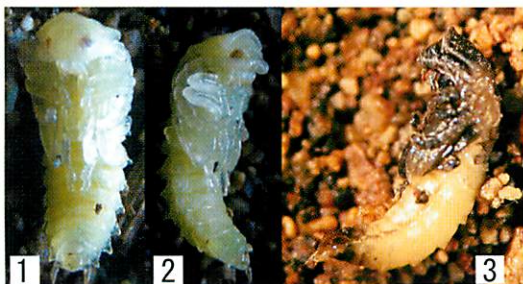


図3 クロクシヒゲボタルの蛹
1・2: 蛹化直後の蛹、3: 羽化直前の蛹

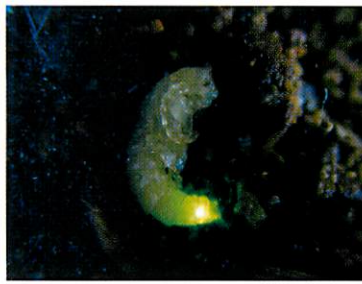


図4 発光するクロクシヒゲボタルの蛹

引用文献

川野敬介 (2008) クロクシヒゲボタルの探雄行動に関する若干の知見 豊田ホタルの里ミュージアム研究報告書, (1): 63-68.